

公益財団法人 アジア保健研修所

2016年度事業報告

(第5期 2016年4月1日～2017年3月31日)

A. 研修事業

| | |
|----------------------------|---|
| 1. 国際研修 | 1 |
| 2. 研修生フォローアップ事業 | 1 |
| 1) 英文ニュースレター発行 | 1 |
| 2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合）の開催 | 1 |
| 3) その他のフォローアップ | 1 |
| 3. 地域保健推進のための協働事業 | |
| ①スリランカ | 2 |
| ②フィリピン | 2 |
| ③フィリピン | 2 |
| ④ネパール | 2 |
| ⑤パキスタン | 3 |

B. 国内活動

| | |
|----------------------------------|---|
| 1. アジア理解のためのプログラム | 3 |
| 1) オープンハウス | 3 |
| 2) 初めて始めて講座 | 3 |
| 3) AHI 講座 | 3 |
| 4) 「チカチカしよう！アジアの草の根ワーカーと体当たりトーク」 | 3 |
| 5) スタディツアー | 4 |
| 2. 関連分野での情報および体験機会の提供 | |
| 1) 情報誌「アジアの健康」発行 | 4 |
| 2) 情報誌「アジアの子ども」発行 | 4 |
| 3) インターネットを活用した広報 | 4 |
| 4) ボランティア・インターンの受入れ | 4 |
| 3. 他団体との協力 | |
| 1) 他団体への講師派遣 | 4 |
| 2) 団体・ネットワークへの加盟 | 5 |
| 3) 他団体との協力による政策提言活動 | 5 |

C. 法人運営

| | |
|----------------|---|
| 1. 理事会・評議員会 | 5 |
| 2. 賛助会員募集・募金活動 | 6 |

A. 研修事業

国際研修参加後の、元研修生との関係を強化し、彼らの活動を支援するために、複数の協働事業の枠組みを設け、彼らの主体性に基づき実施している。引き続き、国際研修後の継続的な学習機会の提供と、有効なネットワーク形成に努める。

創立 35 周年記念アジア次世代育成募金による事業も、研修後の働きかけの一環として、2017 年度には元研修生の活動状況をつかむことから事業の企画立案を進める。

1. 国際研修

期間：2016 年 9 月 4 日～10 月 10 日

場所：アジア保健研修所 (AHI)

参加者：保健・開発分野の地域活動に従事する NGO 職員、住民組織のリーダー・行政職員等アジア 7ヶ国から計 14 名（男性 7 名、女性 7 名）

国別内訳：バングラデシュ 2、インド 3、インドネシア 2、ネパール 1、パキスタン 2、フィリピン 3、タイ 1

*「地方分権下における住民参加による保健活動の推進」をテーマに、参加者の活動経験と課題意識に基づく研修を実施した。下記の内容を通して、各参加者が自分の地域、組織の課題解決に向けた方策を模索し、帰国後の活動計画を立案した。研修生間で率直な意見交換がなされるように努めた。

*地域住民の健康問題の原因、保健政策の現状と課題、グローバル化の影響など、関連した諸状況を分析的にとらえ、地域住民が主体となって課題の解決を図るために、NGOにはどのような役割が必要かを討論した。特に、住民組織の能力形成、地方行政や他の関係機関との連携の構築や政策提言の方策を考えた。

*日本における市民活動や市民と行政の協働を具体的な事例から学ぶため、日進市、名古屋市、尾張旭市（「WHO健康都市」）お

よび長野県阿智村を訪問し、活動見学や関係者との意見交換を行った。

*広島市を訪問し、平和教育や平和活動の実践を知ることにより、平和を創り出すために地域保健活動が果たし得る役割について考えた。

2. 研修生へのフォローアップ事業

1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体との関係継続および経験共有の媒体として、下記のように 2 回、各 1000 部発行した。毎号テーマを設定し、寄稿を呼びかけた。

2016 年 8 月 ユニバーサルヘルスカバレッジに関する事例を紹介。

2017 年 2 月 創刊 100 号記念 AHI 創設者川原啓美の精神を受けついで研修生たちの活動を紹介。

2) リユニオンセミナー（国別研修生会合）の開催

同国内で活動する元研修生間の新たな経験交流およびネットワーク構築の機会として、2016 年度はインドにて開催した。元研修生有志が企画立案から実施を担った。元研修生が取り組んできた、地域に根ざしたリハビリテーション (CBR) と、伝統医療の保護・普及の事業地を訪問し、関係者との意見交換などを行った。AHI 職員 1 名が出張した。

期間：2016 年 4 月 6 日～8 日

場所：インド・タミルナドゥ州チェンナイ市
参加者：元研修生 18 名他

ネパールで計画していたリユニオンセミナーについては、運営態勢が整わなかったため、延期とした。

3) その他のフォローアップ

■出張時の現地訪問

職員の出張時に元研修生を現地で訪問し、研修後のフォローアップを行った。＜パキス

タン(2016年4月・11月)、フィリピン(2016年5月)、スリランカ(2017年2月) >

近年の研修生に関しては、研修終了時に立案する帰国後活動計画の進捗状況の把握に努めた。

■AHI との関係強化、研修生間のネットワーク形成のために

元研修生が AHI や他の研修生との関係を継続し、発展させていくことができるよう、次のような働きかけや環境整備を行った。

- *誕生日に職員が寄せ書きしたカード、年末にはグリーティングカードを送付した。
- *ホームページ上の「活動便覧」(元研修生が他の元研修生の活動を活動領域や国別などで検索できる機能)の活用を促した。

3. 地域保健推進のための協働事業

下記の元研修生による、それぞれの地域での開発活動を支援した。

①茶農園地域の教育環境への支援

元研修生所属の団体 HDO (Human Development Organization) 及び Satyodaya との協働 (スリランカ)

インド南部から 19 世紀に茶農園の労働力として移住したインドタミルの人たちは、長年社会的に低い地位に置かれてきた。元研修生の団体を通じて、この地域の公立学校計 6 校での補修クラスの開催を支援、また保護者に対して教育に関する意識を喚起するための働きかけを行った。

第 2 期合意書(1 期 3 年間)の期間満了に際し、2017 年 2 月に現地に出張。協働団体と協議の上、2016 年度で終了とした。

②ヘルシーライフスタイルプロジェクト

元研修生の有志団体 ANAK-NC との協働 (フィリピン)

ミンダナオ島ニューコレリア町で元研修生の団体 ANAK-NC が 8 村で取り組んでい

る健康増進のための活動を支援した。

各村の保健ボランティアがそれぞれ活動計画を作成し、村開発委員会に提案、実行に移した。生活習慣病予防教室やウォーキングや体操の会が実施された。

今後は各村の健康増進推進チームが主体的に活動を立案、実施することが課題である。

③保健ボランティア育成と代替医療の推進 元研修生の所属団体 INAM との協働

(フィリピン)

ルソン島中部のリサール州タナイ町およびケソン州ジェネラルナカール町で、保健ボランティアの育成と彼らによる保健活動推進を支援した。

タナイ町では、保健ボランティアを中心に約 560 世帯からなる住民保健組織が発足し、月例会が持たれている。ジェネラルナカール町では、2016 年 6 月に行われた研修を修了した保健ボランティア 22 名が本格的に活動を開始、500 余世帯が保健活動に取り組み始めた。

④地域住民の社会心理的課題に対する意識向上とメンタルヘルス推進

元研修生所属団体 Kopila Nepal との協働 (ネパール)

ネパールでは、開発が進み貧富の差が拡大する中、メンタルヘルスの問題が浮上している。特に地方では行政の対応は遅れ、偏見や差別も強く、適切な支援を受けられず症状を悪化させるケースも多い。

ネパール西部のタナフ郡およびシャングジャ郡において、当事者および家族による自助グループの組織化、住民カウンセラーの育成、地域住民への啓発等の実施を 2014 年度より支援してきた。

しかし 2015 年 4 月の地震後の復興事業等、協働団体の業務増加も一因となり、適切に意思疎通をはかることが困難となった。その後も改善に至らず、2016 年度で当事業を中断

することとした。

**⑤小規模 NGO の若手スタッフ育成研修
元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS
Awareness Society (AAS) との協働
(パキスタン)**

パキスタンの、地方の小規模 NGO スタッフを対象としたリーダーシップ育成を支援した。また研修参加者の要望に基づき、フォローアップの一環として下記②を行った。協働団体（研修のファシリテーター）による、研修参加者の所属団体訪問も随時実施し、研修後のフォローアップにも重点を置いた。

①②に際し、職員 1 名が出張した。

①地域開発リーダーシップ育成参加型研修

期間：2016 年 4 月 1 日～4 月 10 日

場所：パキスタン東部ラホール市

参加者：21 名

②CBR(地域に根差したリハビリテーション)ファシリテーター育成参加型研修

期間：2016 年 11 月 1 日～6 日

場所：パキスタン東部ラホール市

参加者：16 名

B. 国内活動

アジア各国の地域保健推進の傍ら、日本国内における、アジア諸国への理解を促進するための情報提供や啓発は、当法人のもうひとつの目的である。これに基づき、広報物の発行、諸プログラムを実施している。広く関心を喚起するために、幅広いテーマの設定を心掛けている。

しかし一方、膨大な情報が多様なメディアを通して流れる現在、当法人が提供する情報や体験機会の独自性が一層求められるようになってきている。

1. アジア理解のためのプログラム

1) オープンハウス

気軽に参加できる年に一度の恒例行事としてオープンハウスを 2016 年 10 月 10 日（月・祝）に AHI を会場に開催した。アジア料理、民芸品の販売、研修生の活動紹介など多様なプログラムを行った。

新メンバーを加え、実行委員会を 6 月に発足。月 2～4 回 20 人前後の出席を得て会合を持った。準備においては、実行委員自身の AHI への理解促進にも努めた。

当日の来場者は約 650 人。外部から 28 のグループの参加と約 100 名の個人ボランティアの協力を得た。

2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、AHI 紹介の講座を毎月 1 回、原則第 4 土曜日に開催した。参加者計 86 名。

同講座において参加者同士の交流に努め、また他のプログラム担当者間の連携をはかり、その後のボランティア活動やプログラムへの参加につながるよう働きかけた。

3) AHI 講座

アジア、国際協力等に関連するテーマを掲げ、次の講座を実施した。

2016 年 11 月 26 日「自分と周りを見つめるためのヨガ講座」於 AHI、12 名参加。

アジアでの国際ボランティア経験を持ち、NGO・NPO にも関わりのある講師を招いた。ヨガ体験のほか、同じ時代を生きる他国の人びととの関係も視野に含めた健康観について話を聞いた。

4) チカチカしよう！～アジアの草の根ワーカーと体当たりトーク

国際研修参加者をリソースパーソンとして、各国の状況や NGO の開発活動を聞き、同時に参加者がそれらに照らして日本社会

の状況を振り返ることを目的とした。

2016年9月22日(木・祝)開催。参加者はボランティア33名を含め74名。

初の試みとして、当日の小グループでの話し合いの運営にあたる人を確保することをねらいとして。8月20日にファシリテーター講座を行った。受講者のうち数名が当日のファシリテーターを担った。

5) スタディツアー

元研修生及び所属団体の協力を得て、南インド、チェンナイ周辺および農村部を訪ねるツアーを2017年3月20日～30日実施した。ホームステイを通じた生活体験のほか、NGOが住民とともに進める地域開発活動を見学した。

参加者は幅広い年齢層で計19名(高校生4名、大学生5名、一般8名、インターン2名)。世代を超えた参加者同士の話し合いを適宜持ち、各自体験を深めることに努めた。

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、開発課題、そこでのNGOや住民による取り組みを主な内容として、計4回、各回約4,000部発行した。ボランティア紹介も積極的に取り上げ、国際協力への関心を高めることに努めた。企画・編集は、毎号4回程度開催する会報編集委員会が担った。

2016年6月には、簡便な形(A4両面)のAHIニュースを事務局で編集、発行した。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども向けに(主対象:小学校高学年以上)、アジア各地の元研修生から情報を得て、現地の子どものたちの日常を地域開発の活動を織り交ぜて、わかりやすく伝えることを主眼に編集、発行した。

企画・編集は、毎号十数回開催する「アジ

アの子ども」編集委員会が担い、2016年8月および2017年2月各5,000部発行した。

3) インターネットを活用した広報

ホームページをはじめ、広報におけるインターネットの比重が格段に大きくなっている。アジアの元研修生や国内の関係者がネット上で自由にやりとりする状況もある。

より活動の内容がわかりやすいものとなるように、新しいホームページの準備を進めた。(2017年4月28日公開)

4) ボランティア/インターン受入れ

国際研修の期間を中心に、年間通じて積極的にボランティアやインターンを受入れ、NGO活動に触れる機会を提供した。事務作業、国際研修の運営補助、国内プログラム実施協力など多様な業務が彼らによって担われた。

インターンは、大学生9名(うち一人は他団体のプログラムによる)、一般2名。うち1名については、2017年3月までの11ヶ月に及ぶ長期であった。

日進市内の中学校の職場体験で中学生2名を2日間、日進市内の県立高校の新任教員研修として計5名を各2日間受け入れた。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝えた。

- ・学校関係(中学～大学) 20件
- ・キリスト教会 2件
- ・諸団体 7件
- ・ブース出展等 13件
- ・グループでの来館受け入れ 4件

上記以外に、下記も実施した。

*2013年度に開始した小学校への出前講座「小学生のための国際理解講座」については、2016年度は日進市との協働事業という位置

づけで計 6 校で実施した。また依頼に応じて市外 5 校においても実施した。

*2016 年度の国際研修参加者のうちフィリピンからの 2 名の参加者を講師として、大学、教会、NPO など計 14 集会を行った。

2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動とともに進めた。< >内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋 NGO センター<理事>
- ・名古屋キリスト教協議会<書記>
- ・障害分野 NGO 連絡会<幹事>
- ・日比 NGO ネットワーク
- ・日本キリスト教協議会
- ・カンボジア市民フォーラム<世話人>
- ・開発教育協会
- ・あじさい会（日進市内の事業所交流会）
- ・ゆるやかネットワーク（日進市市民団体協議会）<理事>
- ・パートナーシップサポートセンター

この他、職員が次の団体の役職を務める。

- ・社会福祉法人さふらん会<評議員>
- ・名古屋 YWCA<評議員>
- ・医療法人財団愛泉会<評議員>
- ・日進市自治推進委員会<委員>

上述以外に、日進市及び近隣地域での市民グループ「にしん平和を考える会」「次世代の子どもたちのいのち・くらし・エネルギーを考える会」の活動にも加わった。

3) 他団体との協力による政策提言活動

a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、さらに政策提言委員会のメンバーとして、国際協力機構（JICA）や外務省などへの政策提言活動に関わった。

2016 年 5 月の G7 伊勢志摩サミットを契機に、当センターが呼びかけ団体の一つとなり、東海地域の市民団体のネットワークが発足

し、市民の伊勢志摩サミットを 5 月 23 日・24 日に三重県四日市市で行った。AHI は、他団体と協力し、保健分野の分科会を担った。

b) カンボジア市民フォーラム

カンボジアに関わる日本の団体のネットワークである同フォーラムに加盟し、同国の開発、保健政策への提言、また援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わった。

C. 法人運営

高齢化等のため、退会者の増加が著しく、会費収入の減少が続いている。一方、大口の寄付を得ることができた。

今後も減少に歯止めをかける方策を検討しつつ、引き続き支援者との丁寧な関係づくりに努める。

1. 理事会・評議員会

理事会を 4 回、評議員会を 2 回開催した。主な議題は下記の通り。

全理事、監事および評議員が 2016 年 6 月に任期満了を迎えたため、選任を行った。

2016 年度末現在、理事 10 名、監事 2 名、評議員 11 名である。

* 理事会

2016 年 6 月 13 日

－公益認定等委員会による立入検査（2016 年 3 月 31 日実施）報告

－2015 年度事業報告案・決算案の件

2016 年 7 月 29 日

－代表理事および業務執行理事選定の件

2016 年 11 月 21 日

－国際研修期間中の残業代の件

－アジア人材育成資金 2 件について取扱い
規程策定の件

2017 年 1 月 30 日

－ネパールの元研修生との協働事業の件

－正職員新規採用と人件費に関する件

2017年3月16日

－2017年度事業計画案・予算案の件

* 評議員会

2016年6月27日

－2015年度事業報告案、決算案の件

－理事、監事および評議員選任の件

2017年3月30日

－2017年度事業計画案・予算案の件

2. 賛助会員募集・募金活動

● 賛助会員現勢 (2017年3月31日現在)

賛助会員総数 2,825名

くうちひとつかみサポーター171名>

寄付者総数 692名

● 支援者・資金獲得のための働きかけ

1) 支援のお願いの送付

新規の支援者を得るために、ボランティア活動やプログラムに参加した人たちにあて、メール配信などを通して関係を継続し、2016年12月にボランティア感謝会へのお誘いととも、「ひとつかみサポーター」のお願いを送付した(約370通)それによる協力者は3件であった。

また、昨年度ボランティア活動やプログラムに参加した人たち約200人にあてにクリスマス募金協力の依頼をしたところ、7件の協力が得られた。

2) 古本提供による寄付「ギフトリレー」

ブックオフの協力を得て新たな支援の方法として2015年度に開始した。協力者による古本の売却金額に同社が10%上乗せた額が寄付される。

2016年度の、インターネットを通じた協力は11件、寄付額は約37,000円であった。このほか、AHIの窓口で受け取った古本の売上金額は約15,000円であった。

これによる寄付金そのもののほか、新規に

接点を広げる方策としても期待しているが、まだ限られた件数に留まっている。

● 会費・寄付金実績

■ 会費収入実績 計 13,665,687円

(目標 15,400,000円 達成率 89%)

1. 従来年会費による 計 11,488,687円

(目標 12,800,000円 達成率 90%)

a) 新規会費 計 121,343円

(目標 150,000円 達成率 80%)

b) 継続会費 計 11,367,344円

(目標 12,650,000円 達成率 90%)

2. ひとつかみサポーター 計 2,177,000円

(目標 2,600,000円 達成率 84%)

a) 新規 計 76,000円

(目標 240,000円 達成率 32%)

b) 継続 計 2,101,000円

(目標 2,352,000円 達成率 89%)

■ 寄付金収入実績 計 48,271,584円

(目標 33,000,000円 達成率 146%)

賛助会員・寄付者に対して、クリスマス・お正月募金をお願いを行った。また随時寄付を受け付けた。

1. クリスマス・お正月募金

実施期間

2016年12月1日~2017年2月28日

協力額 15,902,943円

(目標 20,000,000円 達成率 80%)

2. 一般寄付 32,368,641円

(目標 13,000,000円 達成率 249%)